

新入社員が3年で辞めるのは「ロードマップ」がないからだ②

■面接は「選考の場」ではなく入社してほしいという意思を伝える機会

企業が面接の場で学生を知ることが選考の本質だが、相互理解のためには学生に「この会社に入りたい」と思わせる必要がある。では、どんな工夫ができるのか？考え方の基本は、男女の恋愛と同じだ。「あなたが好きだ（当社にとってぜひとも必要な人材で、どうしても入社してほしい）」という熱い思いを、誠意を込めて伝えるのである。しかし、多くの会社ではそのようなできていない。面接の様子を見ても、「選考の場」としか考えていないようである。

採用ブランドの高い大手企業であれば、そのような考え方で通用するかもしれないが、そうではない企業が「選んでやる」という姿勢で面接を行なったら、どうなるだろうか。「超売り手市場」の現在、学生は他の企業からも「恋愛の意思（内定）」表明されている。「選んでやる」という姿勢の高飛車な企業より、真剣に「入社してほしい」と意思表示している会社に心が傾くのは当然のことである。

現在は「会社が学生を選ぶ時代」から、「会社が学生に選ばれる時代」へと大きくシフトしている。つまり、面接は学生に何かを問う場ではなく、自社の魅力（働きがいがあり、成長が期待できることなど）を学生に知ってもらうための場へと、大きく変わってきているのだ。「落とす面接」ではなく、「会社を好きになってもらう面接」を心がける必要がある。

では、「この会社に入りたい」と思ってもらうためには、どんなアプローチが効果的なのか？それは、「近い将来の姿」を具体的に伝えることである。昨今の学生に10年後、20年後の遠い将来を語っても響かない。1年先、2年先に自分がどうなっているか、どうなれるのかに強く関心を持っているからだ。

しかし実際には、多くの会社が「10年後にリーダーとなり、チームのまとめ役を期待している」「20年後には、我が社の顔として活躍してもらいたい」など、遠い将来のことばかりを話そうとする。言っていることに嘘はないが、「時間の物差し」がこれほどまでに違えば、学生はそれ以上話を聞く気にはなれない。入社してほしいと思うのなら、短い時間軸で話を切り出すこと。それができれば学生もイメージが明確になり、「この会社に入ってがんばろう」と強く思うようになる。

■内定者へのフォローが会社の印象を変え、自発的な「動機」を育めば入社後の活躍に繋がる

内定を出した後のフォローも必要だ。複数の会社から内定をもらったが、どの会社に入社するかを決断できない、という学生が多いからだ。内定者が他の企業との重複内定で迷っているのなら、社会人になって何をしたいのかを、一緒に考えるといいたい。自分のことを親身になって考え、相談に乗ってくれた会社」として、内定者の印象が大きく変わってくるからだ。

また、内定辞退を避けるためには、内定者に悩む時間を与えないようにすることも重要である。内定後、たまに会社に呼び出されるだけでは「本当に自分は必要とされているのか」という不安が募ってくるからだ。内定者の高揚感のピークは内定が出た瞬間で、その後は徐々に気持ちが冷めていく。気持ちが下り坂にあるときは、不安も生まれやすい。間を置かずに内定者とコンタクトを取り、高揚感を保ち続けることが重要だ。内定後もフォローを続け、「自分が必要とされている」と感じてもらうことは、内定辞退を防ぐだけでなく、その後の活躍・定着にもつながる。

会社が成長の土壌を用意するだけでなく、内定者には「自分は〇〇のために、この会社に入社するのだ」という、内面から生まれる「動機」を持たせなければならない。給与・福利厚生などの「衛生要因」ではなく、[動機付け要因]としての自己実現、自己成長を内定者が実感できるように配慮すべきだろう。そうすることで、入社後に[キャリアの成長が望めない]などの理由で離職することはなくなるだろう。

「ミスマッチ」を防ぐには、企業と学生が互いに納得しあう「ストーリー」を作ることが不可欠であり、だからこそ経営者と人事には、その基となる「シナリオ」を最初にしっかり考えることが重要なミッションとなる。そうして完成した「採用ロードマップ」を採用に関わる全ての人たちが共有し実践していくことができれば、ミスマッチは確実に減っていくだろう。

Diamond online より

東北から元気発進！「ワクワク"夢実現"プロジェクト



仕事と生活調和推進企業として
ワーク・ライフ・バランスの実現を応援します

ビジネスマナー ～電話に出た人が会社の顔になる～

会社に電話をかけた人にとっては、電話に出た人は「会社の顔」「会社の人」となるのです。そして、「新入社員」だろうと「社長」だろうと関係なく、電話に対応した人の印象が会社の印象に直結します。今回は電話対応の基本となるポイントをご紹介します。

●3コール以内に出る。

電話のコールが鳴ったら直ぐに出ます。相手が「遅い」と感じないのは3コールまでです。3コール以上なった場合は、必ず「お待たせいたしました」と一声かけましょう。

●明るく名乗る

電話でも第一印象は重要です。ぶすっとした顔で電話に出ると、やる気の無い社員という印象も伝わります。また、プライベートでは「もしもし」と言いますが、ビジネスにおいては基本的に使いません。

●早口にならない

電話で話すときだけ早口になってしまう人がいます。早口で小さな声では、相手が聞き取れません。普段話す時よりもゆっくりなペースを心がけるようにしましょう。

●常にメモをとれるようにしておく

机の上は整理整頓しておき、メモ用紙とペンを用意していつでも書き込める状態にしておきます。メモ用紙を探す為にお客様を待たせてはいけません。

●作業しながら電話対応しない

忙しいからといって、パソコンで作業しながら電話に出るのは失礼です。

●伝言は正確に

伝言があった場合は、正確に聞いてメモを取ります。相手の会社名・所属・名前・連絡先などは復唱して確認をとるようにします。

●電話を受けた場合は先に切らない

電話を受けた場合は、相手が先に切るのを待ちましょう。自分が先に切ることは失礼にあたります。

～暮らしの豆知識～

間もなく梅雨の季節です。この時期の洗濯物の臭いが毎年きになります。この嫌な臭いはちょっとのコツで軽減することができます。

① 洗濯の時は決められた量を守りましょう。

洗濯機の決められた量以上の汚れ物を詰め込むと、洗浄能力が低下してしまい衣服に汚れが残ってしまいます。

また、洗剤を多く入れた方が綺麗になるから、と規定以上の洗剤を入れると溶けきらなかった洗剤が衣服に残ってしまい逆に臭いの原因となってしまいます。

② 洗濯物は溜め込まない

「洗濯物が少ないから今日は洗濯を止めておこう」というのは割りと良くあることだと思います。しかし、濡れたままのタオルを他の洗濯物と一緒に放置しておくことで雑菌が増えてしまい、通常の洗濯をしても中々臭いが取れません。

③ 洗濯機が止まったらすぐに干す

洗濯が終わった直後の洗濯機の中は、非常に湿度が高い状態になっています。これを長時間放置してしまうと、洗濯機の中の雑菌やカビが衣服に付着してしまい臭いの原因となってしまいます。

東北から元気発進！ ワクワク"夢実現"プロジェクト



仕事と生活調和推進企業として
ワーク・ライフ・バランスの実現を応援します